

(7) 近畿



近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

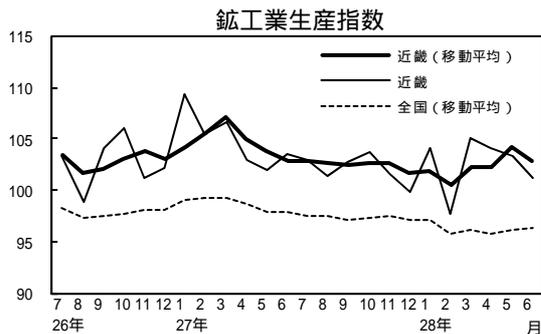
前回調査からの主要変更点

なし

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

4～6月期は、はん用・生産用・業務用機械は、半導体製造装置やコンベヤ等が増加したことにより増加した。化学は減少した。電気機械は、セパレート形エアコン等が減少したことにより減少した。輸送機械は増加した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

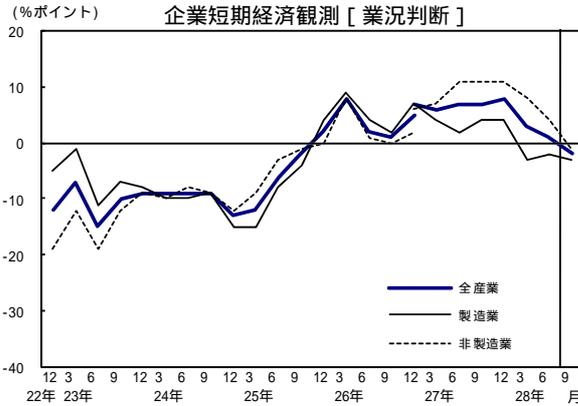
	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
はん用・生産用・業務用機械	17.4	1.6	9.1	0.4	5.2	11.6
化学	16.8	0.6	0.3	1.7	5.4	7.9
電気機械	9.0	1.5	2.9	10.8	1.4	10.8
輸送機械	8.4	4.7	0.1	2.2	6.0	4.1
食料品・たばこ	6.7	2.4	2.8	0.0	0.4	0.9
鉱工業	100.0	0.6	0.6	0.9	0.8	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

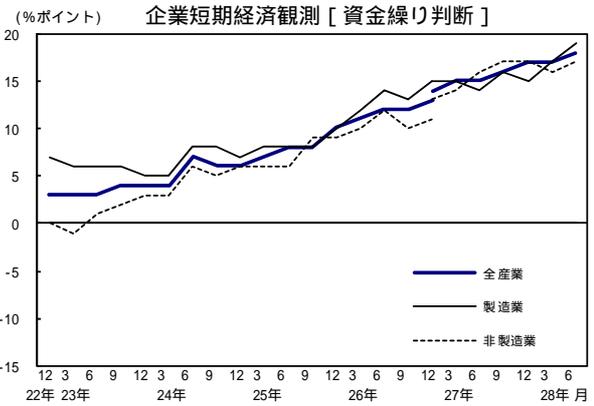
2. 4～6月期、6月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

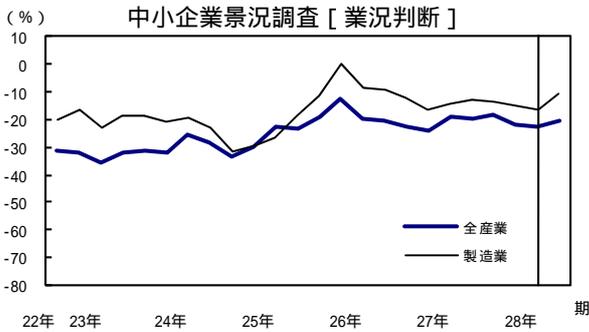
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

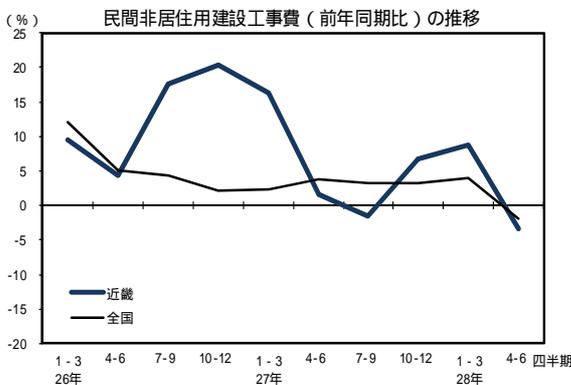


(備考) 「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「3~4月は、期末需要などで多少は上振れしたものの、この夏は例年どおりの売上の推移であり、昨年ともあまり変わりはない(出版・印刷・同関連産業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度概
全産業	4.0(4.3)	6.4(1.1)
製造業	5.5(7.5)	12.0(1.0)
非製造業	9.5(2.1)	2.7(1.1)

(備考) ()は前回(3月)調査比修正率。

(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.6%減、5月は同0.6%減、6月は同0.2%減となった。

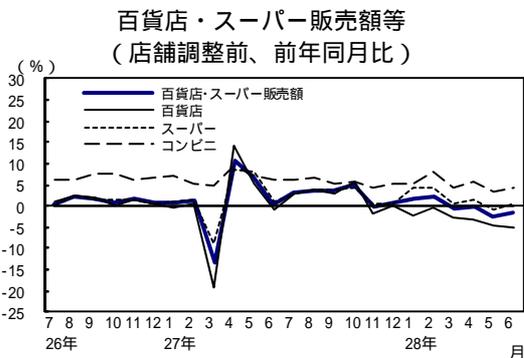
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4月は、「その他の商品」が前年を上回ったものの、春物衣料等の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。5月は、化粧品等の「その他の商品」が前年を上回ったものの、夏物衣料等の等の動きが鈍く前年を下回った。6月は、7月のクリアランスセール前の買い控え等の動きがあり前年を下回った。また、訪日外国人観光客による購買額が減少したことも影響した。

スーパーは、「その他の衣料品」等が前年を下回ったものの、「その他の商品」や「飲食料品」が好調に推移したことにより、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

近畿地域の家計動向関連DIは、45.4となり前月より7.3ポイント上昇した。「クリアランスセールが1日に一気に始まったこともあり、上旬からセール品を中心に好調に推移している。今年は天候にも恵まれ、早めに立ち上がった晩夏物や初秋物の定価商品も、堅調に推移している (百貨店)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

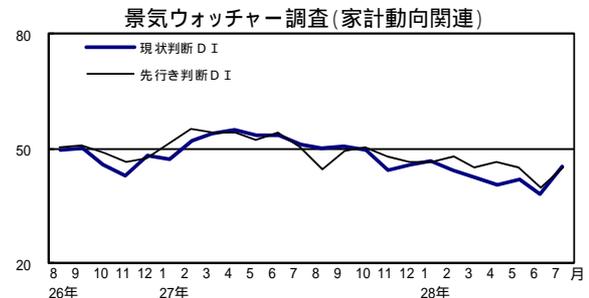
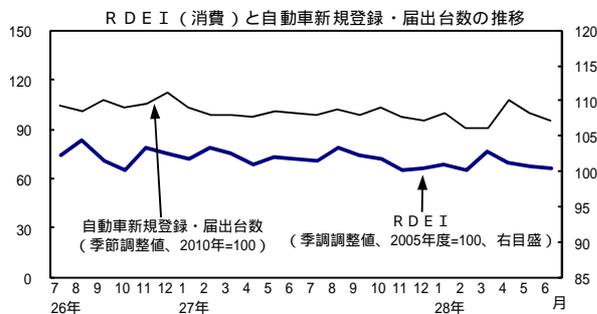


	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.6	1.6	0.6	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.4	0.3	2.3	1.5
百貨店(*2)	4.3	3.4	4.6	4.9
スーパー(*2)	0.5	1.6	0.7	0.7
コンビニ(*2)	4.5	5.9	3.3	4.4
乗用車(*3)	0.6	6.4	0.3	5.9
(季節調整値)(*3)	7.1	18.1	7.1	4.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、地域区分はB。

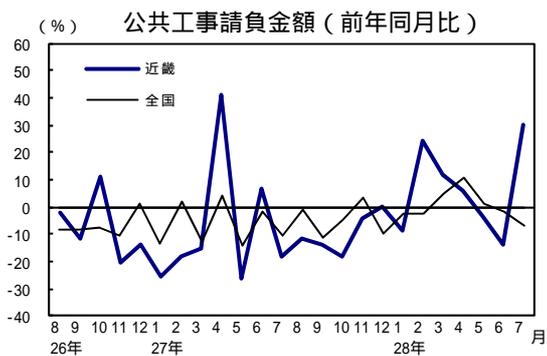
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度とほぼ水準となっている。

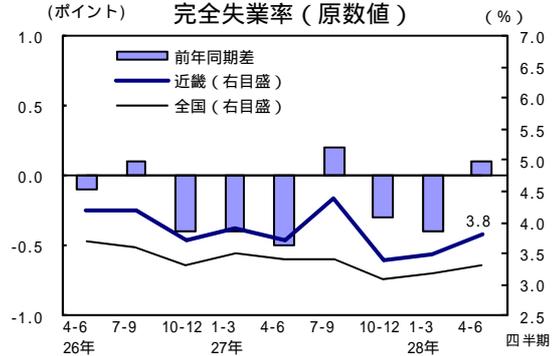
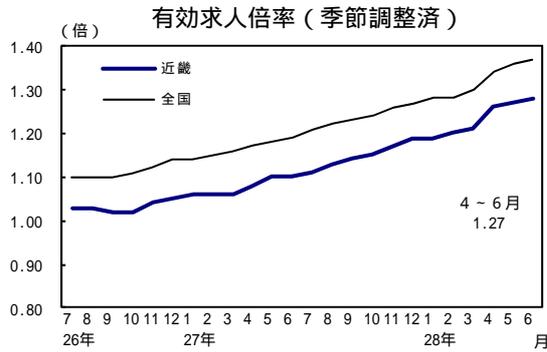


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[雇用関連（現状）]

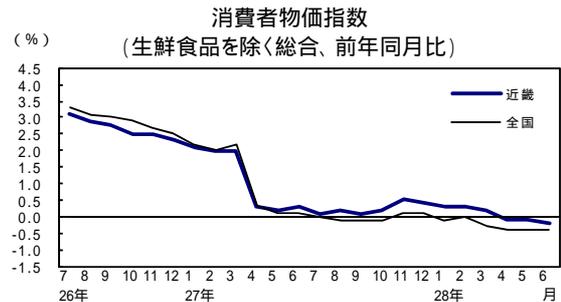
「建設部門が中心の日雇い求人数が、このところは前年比で減少傾向にあったが、今月は増加に転じ始めた（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比が下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3月	4-6月	28年7月
倒産件数	541	531	527	532	154
(前年比)	13.3	9.1	5.6	10.0	24.1
負債総額	503	479	948	592	157
(前年比)	40.5	33.0	12.6	10.5	28.1



景気ウォッチャー調査（7月調査結果）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・宿泊は稼働率が高水準を維持しており、1室単価もまだ上昇している。インバウンドについては、団体客の催行率がやや低下しているが、個人客は増加傾向にある（都市型ホテル）。

<先行き>

・欧州の政情不安が一段落し、株価が戻ってきたほか、政府の経済対策が決定することにより、消費マインドが幾分回復してくる（百貨店）。

